



校長室だより～湘南の空～

第5号

令和4年3月24日

今年度、生徒の皆さんは、コロナ禍にもかかわらず、勉強、行事、部活動等、やりたいことに全力を尽くしたことと思う。皆さんに敬意を表すとともに、今後の挑戦を楽しみにしている。

とことんのめり込もう

今年度、湘南から20名が東京大学に合格を果たした。とかく注目を集める東京大学の総長について紹介しよう。

令和3年4月に東京大学総長に就任した藤井輝夫さんは、昔から海に対する憧れが強く、海への好奇心が研究の入口となり、専攻は応用マイクロ流体システムで、東京大学生産技術研究所に所属している。藤井さんについて「とことんのめり込もう」という記事が令和3年6月7日の日本経済新聞に掲載された。

藤井さんの母校の麻布高校は自由な校風で知られるが、藤井さんの自由度は突出していたという。「中学時代、英国のロックバンド、クイーンに憧れ、ギターを手にした。高校では麻布ミュージックハウスというバンドサークルの部長。学園祭はもちろん、新宿や渋谷のルイードという有名なライブハウスでも演奏した。水泳部の主将も務めていたから、忙しかった。」

いかにも湘南高校にいそうな人物である。「浪人し、大学時代も成績は低空飛行だった。それでもトップに上り詰めたのは、興味のあることを見つけ、とことんのめり込む姿勢を貫いてきたためだ。」

さて、令和3年6月6日に亡くなったノーベル化学賞受賞者である根岸英一先生（28回）は、平成24年度東京大学学部入学式の祝辞の中で「まず好きなことを見つけてとことんやってみる」ことの大切さを話した。湘南生に受け継がれている根岸先生の精神は、藤井さんの理念にも通じるのではなかろうか。

藤井総長は、東京大学が目指すべき理念や方向性をめぐる基本方針として「多様性の海へ：対話が創造する未来（Into a Sea of Diversity: Creating the Future through Dialogue）」を掲げ、東京大学という巨大な船で地球の未来に向かって航行している。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/utokyo-compass.html>

小網代の森

私は三浦半島の先端にある三浦市小網代湾を外洋ヨットレースの拠点としている。小網代の森は、この湾に面した約70haの森である。森の中央にある谷に

沿って流れる「浦の川」の集水域として、森林、湿地、干潟及び海までが連続して残されている、関東地方で唯一の自然環境と言われている。ホタルがシーズンになると一晩で 1000 匹も乱舞し、夏の新月と満月の夕刻、メスのアカテガニは海岸に降りてきて、お腹に抱えた卵を海中でぶるぶる震わせ、卵から飛び出た子どもを海に放つ。また水色の顔をした数千匹の小さなチゴガニのオスがいっせいにハサミを上げ下げし、メスを呼び寄せる。

「なにが『オンリーワン』なのか？ 小網代の森は、ひとつの『流域』が源流から河口まで、まるごと自然のまま守られている、という事実が、オンリーワンなのです。」『奇跡の自然』の守りかた——三浦半島・小網代の谷から ちくまプリマー新書 岸由二，柳瀬博一著

小網代の森の歴史を簡単にたどる。

1960 年代前半まで 里山（棚田、薪炭林）。その後 20 年ほど手付かずの自然。

1970 年 三浦都市計画において市街化区域となる。

1980 年代前半 大規模なリゾート開発計画。

1990 年 現在の NPO 法人小網代野外活動調整会議の前身となった市民団体が発足。（以降現在に至るまで、アカテガニの観察会や外来植物の駆除などの保全活動が行われている。）

1997 年 神奈川県が「かながわトラストみどり基金」を用いて、緑地の買収を開始。

2010 年 県が、保全のために必要な用地確保を完了

2014 年 県、三浦市、公益財団法人かながわトラストみどり財団、NPO 法人小網代野外活動調整会議が、環境保全活動に関する覚書を締結、京浜急行電鉄株式会社の協力により、散策路の一部等が整備され、県へ寄附され一般開放を開始する。

著者は、1970 年に市街化区域となったが、その後に大規模なリゾート開発が計画されたことにより、宅地開発が止まったと言っている。そして、開発に反対するのではなく、バブル期のゴルフ会員権の高騰を見込んだ開発ではなく、長期的な利益・地域貢献を重視し「オンリーワン」の小網代の森をエコリゾートとして総合開発しようと新しい計画を作成した。

私は、小網代湾から奇跡のような原生林と湿地を眺めるたび、地球に生かされているという感覚を確かめる。これからは「小網代の森」が象徴するように、多様性を尊重し、持続可能な世界を目指す時代だ。思いやりを、周りの人や自然環境に向けていきたい。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/d2t/kankyo/p820028.html>